

【吹田市立図書館点検・評価報告書について】

点検・評価報告書について、協議会からいただいた意見について、図書館からの回答を掲載します。

図書館協議会の意見	図書館の回答
<p>コロナ禍で図書館の当初計画が全体的にうまく進まなかったのは、社会状況を考えると、致し方ないと思います。特殊な状況を除いて考えると、目標値の算出根拠を再検討する必要があると思います。人口減少局面を迎えている日本で、今後数値が好転していくことは難しいと思いますし、これからは、事業の中味（社会的意義）がより重要になると考えます。そのため、数値の上がり下がりではなく、質的に評価していくことが今後求められているように感じます。</p>	<p>吹田市立図書館点検・評価報告書につきましては、「吹田市立図書館基本構想」に沿って策定したアクションプランの課題と各事業に自己評価と図書館協議会による外部評価をいただくものでございますが、目標値とした項目につきまして平成25年のアクションプラン作成時のものであり、現状にそぐわないものがございます。令和5年度の第2次基本構想の策定を目指して、いただいたご意見をふまえて、目標値の算出根拠、在り方について検討を進めてまいります。</p>
<p>目標値と実績が表の形となり、達成度について客観的な確認ができるようになったことは評価できる。一方で目標値が記載されていなかったり、あるいは不明確な記述であったりして、なお客観的な評価が困難である項目も多い。</p> <p>指標とする項目の選定の段階からエビデンスのある評価が可能となるよう意識しておく必要があると感じた。</p> <p>実績について、コロナや中央図書館改修工事といった要因がある事を考えると、それらが影響する項目としない項目をわかりやすく委員及び市民に示す必要があるのではないか。方法としては・目標値を修正する・目標値及び実績を一日あたりに直す・説明を補記するなどが考えられる。</p>	<p>今回の点検・評価報告書につきましては、「吹田市立図書館基本構想」に沿って作成したアクションプラン目標達成の指標に基づき表形式に整理をいたしました。また、実績値につきましては、新型コロナウイルス感染症や中央図書館改修工事などによる影響を考慮したものに修正する材料が整っておらず、客観的な値を十分にお示しすることができない項目がありました。令和5年度の第2次基本構想の策定を目指して、いただいたご意見をふまえて、指標となる項目の選定、実績に影響を与える要因に対応できるよう統計値の在り方についても研究を進めてまいります。</p>

<p>この評価は、大変難しいと思いました。図書館の日頃の活動とどれほど向き合っているかを問われているのですが、この状況では致し方ないですが、とにかく対面で実際に会議の中で意見を交換する事で見えてくるものを多く、個人では気が付かない情報も気付かされる事もある様に思います。そういう場で図書館のその動きが見えてくるのだと思います。そういう所で考えられたらと思いつきながら書きました。書面で評価を付けること、簡単ではありません。</p>	<p>本来であれば、図書館協議会委員の皆様に参加いただき、討議いただくべきところ、今回につきましては新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催とさせていただきました。そのため、委員の皆様にご意見を直接いただくことができませんでした。次年度につきましては、今年度の状況を踏まえまして、コロナの影響下での会議の在り方について、委員の皆様のご意見もいただきながら、工夫をしてみたいと考えております。</p>
<p>(取組み3 図書館利用に障がいのある人へのサービスの充実 について)</p> <p>おそらく評価 A に値するサービスを実施されているのだと思うが、評価報告書では目標値が示されている項目が一つしかなく、取組みの説明でその点のフォローもないので、委員としての報告書に対する評価としては B とするしかなく残念に思った。報告書の書き方次第で市民も納得するような形で A とできるのではないかと考える。</p>	<p>目標値とした項目につきまして平成 25 年のアクションプラン作成時のものであり、現状にそぐわないものがある一方、新たに追加すべきものもあることは認識しております。令和元年 6 月に公布、施行された「読書バリアフリー法」に関連した点の追加についてもご指摘をいただいているところです。令和 5 年度の第 2 次基本構想の策定を目指して全面的に目標値の在り方について検討を進めてまいります。次年度におきましても報告書の書き方を工夫をして、吹田市の図書館事業についてよりわかりやすくお伝えできるようにしてまいります。</p>